

機能的行動アセスメント・インタビュー・フォーム

解釈ガイド

背景情報

1. [本人の名前]さんとの関係であなたの役割は何ですか？
回答を使用してインタビュー対象者の専門分野を決定する。
2. [本人の名前]さんをどのくらいの期間知っていますか？ _____
回答を使用して、インタビュー対象者の専門知識のレベルを推定する。
3. [本人の名前]さんには一貫したスケジュールがありますか（毎日または時々）？
はいの場合、説明してください。
ベースライン・データの参考資料としてスケジュールを使う。さまざまな活動が予定されている場合、行動レベルを比較する。また、別々の回答者によるスケジュールの説明を比較する。説明が矛盾する場合、スケジュールはおそらく本人と一緒にいる人によって異なる。
5. [本人の名前]さんは、このスケジュールを理解していますか？ 彼または彼女は、次に何があるか知っていますか？
特定の活動の前に問題提起行動が一貫して生じ、おそらくその活動を遅らせる場合、スケジュールを予測できればこの活動を回避している可能性があります。
6. このセッティングで、[本人の名前]さんの好きなもの（モノ、人、活動）は何ですか？
インタビュー対象者は子どもの好みを知っているか？ 「いいえ」の場合、本人は好みのもとへ十分にアクセスできていない可能性がある。また、子どもは好みを伝えることができない場合もある。好みのモノや活動、および他のタイプの刺激を追加することによって、本人の環境を豊かにすると、問題提起行動が減少することがある。
 - a. その好きなものごとを獲得するのは、どのような状況ですか？
 - b. その好きなものごとに対して自由にアクセスできるのは、どのような状況ですか？
 - c. [本人の名前]さんが、その好きなものごとに、ほとんどまたはまったくアクセスできないのは、どのような状況ですか？
 - d. 問題提起行動を見たことがある人に対して：問題提起行動は上記の状況のそれぞれで異なりますか？
これらの質問はすべて、環境の豊かさのレベルについて、および好みのモノへのアクセスと問題提起行動との間の関係について、手がかりを与えるために考案されている。子どもは他に何もすることがなくて、自分自身を問題提起行動で「楽しませている」場合、豊かさのレベルが低いことが、自動強化行動と関係しているのかもしれない。好みのモノまたは活動へのアクセスが制限されている状況で、問題提起行動のレベルが比較的高い場合は、自動強化が問題提起行動の機能であるかもしれないということを示唆する。
7. [本人の名前]さんが一番嫌いなのは何ですか（モノ、人、活動）？
 - a. [本人の名前]さんがその嫌いなものごとを避けられないのは、どのような状況ですか？
 - b. [本人の名前]さんがその嫌いなものごとを避けられるのは、どのような状況ですか？
 - c. [本人の名前]さんがその嫌いなものごとによってさらされないのは、どのような状況ですか？
 - d. 問題提起行動を見たことがある人に対して：問題提起行動は上記の状況のそれぞれで異なりますか？
これらの質問はすべて、逃避行動の可能性についての手がかりを与えるために考案されている。また、嫌悪的な状況にさらされ過ぎていることは、豊かな環境が必要だという警告である。支援方法の詳細については、第8章を参照。

8. [本人の名前]さんがやりとりを楽しむ友だち/兄弟姉妹はいますか？
9. [本人の名前]さんがやりとりを楽しむ大人はいますか？
10. 人とのやりとりへのアクセスは、[本人の名前]さんには、1日を通してどのくらいありますか？

これらの質問は、本人が毎日向けてもらう注意のレベルをアセスメントし、注意が本人にとっての動機であるかどうかをアセスメントすることを目的としている。

11. [本人の名前]さんは、友だち/兄弟姉妹に好かれていますか？
12. [本人の名前]さんは、大人に好かれていますか？
本人があまり好まれていない場合は、通常、向けられる注意の質や量は低下する。これは、注意によって維持される問題提起行動に関係することがある（つまり、他者から注意を向けってもらうために、問題提起行動を取ることがある）。
13. [本人の名前]さんは、難しい課題にはどのように反応しますか？
可能な逃避維持行動をアセスメントするために。
14. [本人の名前]さんは、好きな活動を中断させられると、どのように反応しますか？
モノや活動へのアクセスによって維持される行動をアセスメントするために。
15. [本人の名前]さんは、注意を向けられなくなると、どのように反応しますか？
注意によって維持される行動をアセスメントするために。
16. [本人の名前]さんは、誰か他の人にも注意を共有されると、どのように反応しますか？
注意によって維持される行動をアセスメントするために。

コミュニケーション・スキル

1. [本人の名前]さんは、自分の欲求とニーズをどのように知らせますか？
2. [本人の名前]さんにとって、最も容易なコミュニケーション手段は何ですか？
3. [本人の名前]さんは、どうやってあなたの注意を引きますか？
・それに応じて、時間的には何パーセントくらい、注意を向けますか？
4. [本人の名前]さんは、あなたと交わりたいときには、どのようにしてそのことをあなたに知らせるのですか？
・そのことで時間的には何パーセントくらい、交わることになりますか？
5. [本人の名前]さんは、ほしいものやしたい活動があるとき、それをどうやってあなたに知らせるのですか？
・それに応じて、時間的には何パーセントくらい、そのものや活動を提供しますか？
6. [本人の名前]さんは、どのようにして課題中に休憩を取ったり、別の課題を要求したりしますか？
・それに応じて、時間的には何パーセントくらい、休憩または新しい課題を提供しますか？

上記の質問はすべて、欲しいモノを手に入れるための、適切な行動vs不適切な行動の使用の効率性をアセスメントすることを目的とする。コミュニケーション・スキルの不足が明らかになったら、支援は、問題提起行動に直接対処するのではなく、コミュニケーション・スキルを構築することに焦点を当てることになる。

行動の履歴

1. 初めて問題提起行動に気づいたのはいつですか。

この質問は、この特定のセッティングでその行動が問題とされてきた期間をアセスメントするのに役立つ。複数の情報提供者にインタビューすることで、その行動が最初に生じた場所を特定できる。このことから、機能に関する手がかりが得られるかもしれない。問題提起行動が非常に長く続いているため、いつその行動が始まったかをスタッフが思い出せないということは、支援が奏功するまでには、もっと時間がかかるかもしれないということである。なぜなら、その

「脱学習」すべき行動の学習履歴が、それほど長いからである。次のセクションを飛ばして、その次に進みなさい。

2. その行動が始まりました頃にあった変化で、あなたが知っているものはありましたか？

a. [本人の名前]さんにあらたに要求されたものはありましたか？

b. [本人の名前]さんに対する要求は増加しましたか？

その行動の逃避機能の可能性をアセスメントするために。

c. 要求は除去または削減されましたか？

構造化されていない時間は、自閉症の人にとってしばしば非常に厳しい。したがって、この質問で、自分の時間を埋めることや、静かに座っていることなどを求められることからの逃避に関連する行動をアセスメントする。何もすることがない時間の突然の増加は、自動強化行動の増加に関連していることがある。

d. その時、子どもと支援者の比率は変わりましたか？

e. その時、その環境に出入りした子どもがいましたか？

f. その時、その環境に出入りした大人がいましたか？

g. その時、注意度に何らかの変化がありましたか？

これらの質問の目的は、注意に関連する変数をアセスメントすることである。問題提起行動には、好きではない人の注意からの逃避も絡んでいることがある。

h. その時、[本人の名前]さんのスケジュールや活動が変更されましたか？

i. その際、使える材料が変更されましたか？

これらの質問の目的は、ものや活動に関連する行動をアセスメントすることである。

j. その時、病気でしたか？

k. その時、薬が変更になっていましたか？

l. その頃、睡眠パターンに変化がありましたか？

m. その頃、食生活に変化がありましたか？

これらの質問の目的は、行動に影響を与える生理的要因をアセスメントすることである。これらの生理的要因は、行動の閾値を変え、いわば「導火線を短くする」ものであったり、自動強化行動と関係したりする。この情報は、特定の問題提起行動が薬の副作用かどうかを明らかにするのに役立つ。

n. その頃、[本人の名前]さんの物理的環境に何か変化がありましたか？

この質問の目的は、その人が物理的環境からのある種の刺激に反応しているかどうか、望ましくない感覚から逃避するか、著しく気がそらされることに反応しているかなどをアセスメントすることである。

問題提起行動の現在の状態像

1. 問題提起行動をどのくらいの頻度で目にしますか？

これに対する答えは、ベースライン・データとともに、セッティング間の比較を可能にする。

2. 何か他の行動とともに生じやすいですか？

これに対する答えは、同じ機能を果たす別の行動についての仮説を可能にする。たとえば、頭を叩くことと手を噛むことが通常一緒に生起する場合、それらは同じ機能を果たす可能性がある。

3. 問題提起行動が常に生じる特定の状況がありますか？

4. 問題提起行動が決して生じない特定の状況がありますか？

問題提起行動の機能の手がかりとして、各セッティングの特徴を特定する。たとえば、問題提起行動が仕事(勉強)中

に常に生起し、休憩中には生起しない場合は、おそらく逃避に関連している。

5. 問題提起行動を生じさせることができますか？「はい」の場合、どのようにして？

この回答は、直前の先行事象の少なくとも1つを特定する。

6. 問題提起行動を予防することができますか？「はい」の場合、どのようにして？

問題提起行動を予防する変数を特定することで、動機づけの手がかりが得られる。たとえば、子どもを一人で座らせることで問題提起行動を予防できれば、その問題提起行動は注意から逃避したいために生起するのかもしれない。

7. 状況によっては、問題提起行動が激しくなりますか？「はい」の場合、どんなときに？

8. 状況によっては、問題提起行動が穏やかになりますか？「はい」の場合、どんなときに？

9. 問題提起行動が多かれ少なかれ生じやすくなる曜日がありますか？「はい」の場合、その曜日の[本人の名前]さんのスケジュールで他の曜日と違うところは？

10. 問題提起行動が多かれ少なかれ生じやすくなる時間帯がありますか？「はい」の場合、[本人の名前]さんのその時間帯のスケジュールは何ですか？

11. 問題提起行動が多かれ少なかれ生じやすくなる場面はありますか？

12. 一緒にいると問題提起行動が多かれ少なかれ生じやすくなる人はいますか？

13. 問題提起行動が多かれ少なかれ生じやすくなる活動はありますか？

14. 問題提起行動が生じるときにたいいてい周囲にあるものというのがありますか？

15. 問題提起行動が生じるときにたいいてい周囲にないものというのがありますか？

上記の全質問の答えを検討するとき、課題は、問題提起行動につながる変数とそうでない変数を特定することである。問題提起行動が起こったときに周りにいた人たちについて検討する。その人たちは、問題提起行動が起こらないときにいた人たちとは何が違うのか？子どもが課題に取り組んでいるとき、その人たちは良質で豊かな注意を向けていたのか？その人たちは問題提起行動に対して、より一貫した随伴性(すなわち、強化?弱体化?)を提示していたのか？あるいは、子どもにそれほど多くの要求を課さなかったのか？子どもに好みのものや活動へ自由にアクセスできるようにしたのか？これらの対比事項のそれぞれを観察すると、別の支援につながるだろう。

時に、人が違うと子どもの行動も違うということが、人の行動によるものではない場合もある。ひょっとしたら、より大きな問題提起行動に関係する指導者は、子どもが逃避しようとする特定の香水を使っているのかもしれない。ある指導者の声別の指導者の声よりも大きく、それが子どもの逃避行動につながっているのかもしれない。いずれにせよ、問題提起行動に関連する特定の変数を明らかにすることで、支援をいかに導くべきかがわかる。

同様に、問題提起行動に関連する特定の環境変数を明らかにすることが、支援を導いてくれる。問題提起行動が起こる環境と起こらない環境のそれぞれで、照明、匂い、質感、味、温度、密集度、音量などを検討する。問題提起行動が生じるセッティングに共通して存在する変数と、問題提起行動が生じないセッティングには存在しない変数とを取り出せるなら、効果的な支援への道を進んでいることになる。

16. 問題提起行動のよくあるトリガー[引き金]に気づきましたか？

直前の先行事象を特定する。

17. あなたは通常、問題提起行動にどのように反応していますか？

結果事象を特定する。

18. 他の方は通常、問題提起行動にどのように反応していますか？

結果事象を特定する。

19. [本人の名前]さんをひとりにしておくと、問題提起行動は生じると思いますか？

20. [本人の名前]さんがひとりで問題提起行動を取っている場面に、あなたは今までに入ったことがありますか？

子どもがひとりで放っておかれたときに問題提起行動が生じるなら、これは自動強化された行動を示唆する-それを止める人がいないために生じた場合を除く(たとえば、クッキーを盗む)。

生理学的考慮事項

1. [本人の名前]さんは現在どのような薬を服用していますか？

2. [本人の名前]さんは、いつこの薬を服用し始めましたか？

3. よくある副作用は何ですか？

4. [本人の名前]さんは、なぜこの薬を服用しているのですか？

5. [本人の名前]さんに、何か病気や症状はありますか？

・「はい」の場合、[本人の名前]さんの問題提起行動と、その病気や症状の重症度との間に、何らかの関係があることに気づきましたか？

6. [本人の名前]さんの睡眠パターンは？

・[本人の名前]さんの睡眠と問題提起行動との間に、何らかの関係があることに気づきましたか？

7. [本人の名前]さんの食事パターンは？

・[本人の名前]さんの食事と問題提起行動との間に、何らかの関係があることに気づきましたか？

8. [本人の名前]さんにアレルギーはありますか？

これらの質問の目的は、問題提起行動に影響を与える生理学要因をアセスメントすることである。これらは、人の行動の閾値を変える-いわば「導火線を短くする」可能性がある。あるいは、自動強化行動に関連しているかもしれない。この情報は、特定の問題提起行動が薬の副作用かどうかを明らかにするのに役立つ。